

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第124版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



保育園は世の中の縮図であり、一つの職種の方だけでは根本から解決できない問題が多々あるからこそ、様々な職種の方々がチームとして協力する必要性を感じます。

職域別見守る保育セミナー ～子ども本来の力を取り戻す～

今年もギビングツリー主催の「職域別見守る保育セミナー」が開催され、栄養士、調理師、看護師、事務職、保育士、園長など、様々な職種の先生方が集まりました。

セミナー初日の講演では、講師の方から『オーガニック食材と健康』についてのお話があり、子どものアレルギーの問題ひとつをとっても「本来の自然のものを食べていれば余り起きることはない」ということを教えていただきました。それを踏まえて、翌日のグループ討議では問題に対しての対処のみではなく、その先の「子どもたちの本来の力をどのように取り戻すか」というところまで話し合っていました。



子どもたちも興味津々!!

先日の「何かやりたい事ありますか?」と尋ねたところ「科学実験をやりませんか!」という案から、午前中の活動は3種類の科学実験を行いました。2つ目までの実験はうまく行きましたが、最後の実験は「水の過冷却」です。子どもたちに水が氷になる瞬間を見せて、最後はジュースを凍らせておやつに食べるといふシナリオでしたがなかなか上手くいかず、結局失敗! 子どもたちもがっかりした様子で解散しましたが、お父さんたちは諦めず何が原因だったのか? 何度トライした結果、「おお!!」と歓声が上がりました。その声に反応した子どもたちも集まり、やっと水が氷になる瞬間を見せる事ができたのです。



失敗したことでますますお父さんたちのスイッチが入ります!



配っていない地域の方々からも、新聞を片手に声を掛けてもらえたり、地域の方が新聞を紹介して下さっている事実も!

岡山県の富岡保育園様にお伺いした際、とても素敵な取り組みをご紹介頂きました。地域のおじいちゃんおばあちゃん方に、自分たちの大切にしていただくことや保育にかけたいことを伝えようかと悩み、地域の敬老会で園の取組みをA3サイズの新聞に配ったそうです。すると早速空き時間に皆様ももの凄く見てくれたと言います。

おじいちゃんおばあちゃん宅のポストに配ってみたいところ「この間の新聞のあの記事、あれからどうなった?」と声を掛けて下さるようになり、着実に伝わっていることを実感したそうです。今までの刊行物や発信物よりもずっと理解してもらいやすく、今まで以上に好意的に関心を寄せて下さっていたことに驚かされていました。見てもらいたい方々の暮らしや好みに寄り添った発信の仕方。どんな人にも心を寄せる行いを私たちも学んでいきたいと思えます。

発信リノベーション

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

働き方、改革中です



まるで引越し?! 協力が生まれますね♪

いま社内では模様替えプロジェクトが進行中です。新しい仲間が増えている中で、みんなにとって居心地が良く協力や協働が生まれやすい環境にしようと始まったのですが、十数年かけて蓄積されたものの断捨離は容易ではなく、「どこから手をつけていいのやら…」状態に。いつも以上に話し合いの場を設け、「畳とちゃぶ台の空間があったら良いな」「固定席をなくしたら?」「集中したい時の席をひとつだけ用意しよう」など、居心地が良く協力し



左奥には集中したい時の席を配置し、「動」の中にも「静」の空間も設けています。



リクエストの多かった畳&ちゃぶ台ゾーン!

やすい場をつくるため、みんなで輪（和）になり意見を出し合いました。まずは断捨離! 山盛りの不要な書類やら壊れた椅子やら、不用品を整理して、大きな棚も大胆に移動させて色々試してみるのですが、配線がうまくいかず頓挫。家具の位置が違和感だらけでまたもや頓挫…。思うように進まないことの連続ですが、その度に作業を止めて話し合いを重ねます。これはもう一生完成しないのではないかと不安になる中、それを逆手に取り、一週間の予定に合わせて週ごとにテーブルの配置を変えてみようという斬新なアイデアも生まれ、今はその計画に向かって動いています。何だか、まるで保育園のゾーン設定のようでワクワクします♪

掃除や配置替えひとつ取っても、安心して進められる方法やペースは人それぞれ違うもの。このプロジェクトによって今まで以上に話し合ったり得意を活かしたりと協力し合う場が生まれています。模様替えで働き方改革を実行中のカグヤ。お近くにお越しの際はぜひ一度ご覧いただき、アドバイスをいただければ嬉しいです。

一期一会庵

自分事

先日、アフリカのマラウイに JICA の活動で2年間ボランティアをした経験のある方と会食をしながら話を伺いする機会がありました。最貧国の一つでもあり、現地での体験の話を聞いてみると色々と考えさせられることばかりでした。その方も、現地で沢山の子どもの飢餓や死をみてきて、貧困の原因になっている政治や賄賂などの現状を見て、自分の人生観が変わってすべて自分事になったと仰っていました。特に某国がアフリカに途上国援助に入ってきては、言葉巧みに色々現地で侵略行為のようなことをしていることなども聞きました。

世界の国家がどのように後進国を植民地化していき、そして現地の方々がどのように貧困になっていくのか、そこでどのように現地の方を教育し支配し搾取していくのかなど、具体的にお聞きしていると教科書では決してわからなかった真実が現場からの生々しい体験の声で聴こえてきます。どうしても日々のテレビやニュースばかりを忙しい中で見て聞き流していたらそのうち思考が停止して他人事になってしまうように思います。その記事に何を感じて共感し、そこからどう行動に移したか。つまり人間は自分事として行動するときのみ現実の世界は変わっていくように思います。そのように世界の出来事を自分事にできる人は、日々起きてくる出来事を他人事にはしていません。これは会社の誰かの仕事であっても、お客様のところへ起きた問題であっても、身の回りの人たちの苦勞であっても、自分事として常に親切を実践することです。視野の広さというのは、単なる自分の人生の自分事だけに生きるのではなく、世界人類のことも自分事として捉えることができる人にこそあるように思います。そういった国際人を育成することは、将来の日本に大切な人材を育成していくだけでなく今後の社会でどのように世界に貢献し合っていくかという人類の方向性に参画するためにも大切なことのように感じます。まさにこれが保育の仕事に携わる醍醐味でもあります。子どもたちのためにも、真摯に世の中を自分事として見つめつつ部分最適から全体最適を目指し自分に与えられたお役目を信じて精進していきたいと思えます。

編集後記



山下先生、ありがとうございます!

今号の記事にもありますように「模様替え」の効果もあって、働き方もより協力がうまれやすくなり、改めて環境・場の力の大きさを実感しています。そして協力といえ、今回の表

面の中段記事は、新宿せい子ども園の山下祐先生にご寄稿いただきました! こうして園の先生に丸ごと記事を書いて頂くのは初の試みでしたが、園での取り組みがよりリアルに伝わっていると共に、組織を超え一緒に協力できる働き方も、新しいひとつの「働き方改革」だと感じるものがありました。今後も全国の園の先生方と一緒に、より価値のある新聞をお届けできたと思っていますので、これからもよろしくければご覧下さい。(宮前奈々子)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます